

(案)政策1.誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち(教育・文化)

政策の目標

市民一人ひとりが生涯にわたって主体的に学び続け、備前市の豊かな歴史・文化を継承・発展させながら、子どもたちが「生きる力」、「創造する勇気」、「郷土を愛する心」を育むことができる、心豊かで活力に満ちた教育・文化のまちの実現を目指します。

政策の現状と課題

国においては、第4期教育振興基本計画で「持続可能な社会の創り手の育成」と「ウェルビーイングの向上」が掲げられ、GIGAスクール構想第2期では個別最適な学びの深化が目指されています。

こども基本法の施行により、子どもの権利を基盤とした教育施策の展開が求められ、部活動地域移行への対応も急務です。岡山県では第4次教育振興基本計画に基づき、デジタル田園都市国家構想と連動した教育DXの推進が図られており、本市もこれらの動向に対応した施策展開が必要です。

【備前市の現状と課題】

生涯学習の分野では、図書館登録率や市民一人当たりの図書貸出冊数あるいは公民館利用者数などが近年低迷していることから、市民の学習意欲と学習満足度を向上させることが課題です。このため、令和7年度に開館した「備前市学びと遊びの健康プラザ(ビーテラス)」や令和8年度開館予定の新図書館を核とした学習環境の整備を進めるとともに、家庭・学校・NPO等関係者間の連携を強化して地域ぐるみで生涯学習を推進するための体制づくりが必要です。

就学前教育・学校教育の分野では、多様化する保育ニーズへの対応のほか、支援を必要とする園児へ適切に対応できる体制の維持が課題です。

学校教育の分野では、全校配置されているALT及び学校司書の活躍機会の拡大、ICT環境の最適化、探究的な学習への取組などが重要です。また、児童・生徒が安心安全な環境で学校生活を送ることができるよう、学校施設の計画的な改修を実施するとともに、均等な教育機会を提供する観点から学校規模の適正化に向けた検討が必要です。

歴史文化分野では、日本遺産認定の旧閑谷学校、備前焼、北前船寄港地をはじめ地域文化資源の保存・活用と効果的な情報発信が課題であり、文化施設の集約化も含めた歴史文化の活用と継承を考える必要があります。

スポーツ分野では、市内体育施設利用者数の増加を図り、部活動地域展開への対応と生涯スポーツによる健康づくり・地域活性化が求められています。

<市の政策推進において特に重要な課題>

- 新図書館・ビーテラスの効果的活用:施設を核とした生涯学習環境の充実と利用促進
- ICT教育環境の最適化:GIGAスクール構想第2期対応と教職員スキル向上
- 探究的な学習の推進:グローバル人材育成と教育の質向上
- 人材確保と育成:保育教諭・ALT・学校司書の確保と活躍機会の拡大
- 学校施設の老朽化対策:長寿命化計画に基づく計画的改修・整備

目標(KPI)

分野	指標名	基準値(2025)	目標値(2029)
生涯学習	地域学校協働活動推進員の委嘱校数	0校	12校
生涯学習	図書館登録率	48.5%	66.4%
就学前教育	「子どもが楽しく園に通っている」と回答した割合	97.9%	100%
学校教育	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合	73.8%	90.0%
学校教育	ICT 活用スキル達成度・ICT 環境満足度 学校情報化認定制度(日本教育工学協会)の各チェック項目 ①教科指導における ICT 活用 ②情報教育 ③校務の情報化 ④情報化推進体制) のレベル	市平均 ① 1.8 ② 1.7 ③ 1.6 ④ 1.8	市平均 ① 2.0 ② 2.0 ③ 2.0 ④ 2.0
歴史文化	「暮らしている地域では、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」と回答した市民の割合	23.1%	32.3%
スポーツ	「スポーツ(運動)を定期的にしている」と回答した市民(10代～70代)の割合	41.8%	45.0%

施策一覧

施策名	担当部局	担当課
生涯学習の充実	教育委員会	生涯学習課 図書館活動課
就学前教育、保育等の充実	教育委員会	幼児教育課
学校教育の充実	教育委員会	教育総務課 教育政策課 学校教育課
歴史文化の活用と伝統文化の継承	教育委員会	生涯学習課
スポーツ・レクリエーション活動の推進	教育委員会	文化スポーツ振興課

みんなで進めるまちづくり

✧ 市民一人ひとりができること

- 新図書館やビーテラスの各種講座・イベントに積極的に参加する
- 公民館活動や地域の学習グループに参加し、学んだことを地域で共有する
- 家庭での読み聞かせや親子での図書館利用を習慣化する
- 認定こども園や学校の行事に積極的に参加し、教育活動を支援する
- 旧閑谷学校や文化財の見学・清掃活動に参加する

✧ 地域等みんなでできること

- 高齢者の知識・技能を活かした世代間交流学習を企画実施する
- 保育園・認定こども園の行事や園庭整備に地域として協力する
- 文化財の保存・管理活動に地域として取り組む
- 部活動の地域移行に向けた受け皿づくりに協力する

1-1 生涯学習の充実

■ 施策の方向性(施策の目標)

公民館や図書館などの社会教育施設を拠点として、幅広い世代の市民に対し、多様な学びの機会が提供され、様々な分野で活用できる知識や技術を習得しやすい環境を整備します。

特に新たに整備される図書館では、読書だけでなく、学習と交流の場も設け、より多くの市民が心豊かな生活を送れるよう環境を整えます。同時に、費用対効果の最大化にも努めます。

市民一人ひとりの学んだことが自己実現だけでなく、社会参加等に結びつくことで、世代を超えた交流やボランティア活動が活性化し、生き生きと暮らせるまちの実現を目指します。

■ 目標達成のために解決すべき課題と取組

課題	取組
1 「学び」の環境づくり ・地域全体で生涯学習を推進していくため、地域・家庭・学校・NPO等が連携し、地域の教育力の向上が必要です。	地域の教育力向上に向けた環境づくり ・地域と学校の連携・協働の推進 ・教育支援活動の機会創出 ・家庭教育や青少年健全育成の推進 ・人材育成のための奨学支援 ・関係団体との連携、関係づくり
2 魅力ある図書館づくり ・現在の図書館(本館・分館)はいずれも小規模であるため、図書及び関連資料の開架、閲覧等のスペースが限られ、駐車場も十分ではないことから、市中心部に新図書館を整備します。	読書及び学習活動に利用しやすい魅力ある図書館づくり ・新図書館では、より多くの市民に読書に親しんでいただくことや学習活動及び交流の場として利用されるように、施設の利便性を高めるとともに、蔵書の充実、職員と図書館ボランティアによる読書活動を推進します。
3 公民館活動の充実 ・市民の身近な社会教育施設である公民館では、趣味趣向が多様化する中、市民の自己実現を促進する公民館事業の展開が必要です。 ・備前市学びと遊びの健康プラザ(愛称:ビーテラス)が開館し、中央公民館としての役割と地域公民館としての役割を充実させる活動が必要です。	生涯学習に取組む環境づくり ・世代や地域のニーズに沿った講座の充実 ・成果発表の場の創出 ・活動拠点としての公民館施設の充実 ・地区公民館との情報共有と活動支援 ・情報発信力の向上

■ 施策の目標達成指標

課題番号	指標名	基準値 (2025)	目標値 (2029)
1	地域学校協働活動推進員の委嘱校数	0校	12校
2	市民一人あたり図書貸出冊数	2.4冊	5.4冊
2	図書館登録率	48.5%	66.4%
3	市民一人あたり公民館利用回数	2.7回	3.3回

■ 関連する個別分野計画

計画名	計画期間
備前市立図書館整備基本構想	2020年3月策定
備前市立図書館等整備基本計画	2023年2月策定
第3次備前市子ども読書活動推進計画	2020年4月～2026年3月

用語	説明
地域学校協働活動推進員	地域住民と学校の橋渡し役として、地域と学校が協力して子どもたちの成長を支えるための活動を行う。 具体的には、学習支援、安全支援、地域貢献、広報活動などを行う役目として、2017年に改正された社会教育法に基づき、教育委員会によって正式に委嘱される職。
備前市学びと遊びの健康プラザ (愛称:ビーテラス)	旧アルファビゼンが改修され、備前市学びと遊びの健康プラザ(愛称:ビーテラス)を開設。子ども向け広場、公民館等が整備された複合施設である。

■ 関連する SDGs のアイコン



1-2 就学前の教育、保育等の充実

■ 施策の方向性(施策の目標)

就学前教育は、子どもたちが生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な役割を担っています。認定こども園、民間の小規模保育園、認可外保育施設の整備や支援を行うことで、家庭でも園でも充実した就学前教育が受けられることを目指します。

支援が必要となる就園児には、地域の子育て機関などと連絡を密にした支援が行われ、また認定こども園と小学校などの積極的な連携により、子どもの発達や学びの接続が組織的に行われるまちの実現を目指します。

■ 目標達成のために解決すべき課題と取組

	課題	取組
1	待機児童の解消 ・待機児童は解消されつつありますが、保護者の働き方などにより、ニーズに沿った受入体制が必要です。	待機児童の解消のための各種支援 ・認可外保育施設利用者への助成と民間の小規模保育園への支援など、多様化する保育需要に応えられる体制を整えます。
2	質の高い保育教諭の確保 ・保育需要が多様化しているため、受入に対応する保育教諭の確保が必要となります。 ・国の基準が改正され、園児1人に対する保育教諭の数が見直されています。	保育教諭の離職防止及び研修、心のケア ・ICTの活用や、働き方の見直しなどにより保育教諭の負担軽減を図ります。また、研修等によりメンタルケアの強化や、保護者からの相談対応など新人・若手職員の育成を行います。
3	支援が必要な園児への対応 ・年齢別の保育教諭配置基準をクリアしても、支援の保育教諭が必要になるため、常に人材確保が課題となっています。	※ここでは、課題3、4について、就学前教育、保育等の視点から、こども園などの人材育成、確保について記述しています。 「支援が必要な園児への対応」や「保護者等からの相談対応」の中で、子育ての課題については、政策3の施策「3-2 子育て支援の充実」のところで、子どもや保護者への支援や相談体制について記述しています。
4	保護者等からの相談対応 ・保護者等からの相談対応については、保育教諭が複数名、長時間の対応を求められるケースも多いため、保育教諭のサポートが必要です。	

■ 施策の目標達成指標

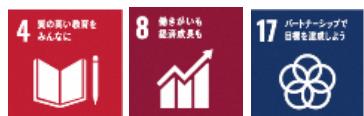
課題番号	指標名	基準値 (2025)	目標値 (2029)
1~4	公立認定こども園の入園率	92.7%	100%
2~4	保育教諭一人あたりの年間研修受講日数	4.5 日	7.0 日
1~4	「子どもが楽しく園に通っている」と回答した割合	97.9%	100%

■ 関連する個別分野計画

計画名	計画期間
第3期備前市子ども・子育て支援事業計画	2025年～2029年

用語	説明
認定こども園	教育と保育を一体的に行う施設。幼稚園と保育所の機能を併せ持つ。
認可外保育施設	国の基準のすべてを満たさないが、県に届出をしている保育施設。自治体の審査なく入園が可能。

■ 関連する SDGs のアイコン



1-3 学校教育の充実

■ 施策の方向性(施策の目標)

子どもたちが、主体的に学ぶことができる環境を整備し、学びに出会う機会を充実させることにより、備前市で学んだことに誇りを持ち、これから時代を生き抜く力を獲得できる教育が行われ、「生きる力」、「創造する勇気」、「郷土を愛する心」を育むことができるまちの実現を目指します。

■ 目標達成のために解決すべき課題と取組

	課題	取組
1	ALT を活用した外国語教育環境の充実と周知 ・学力調査による外国語教育の結果は良好ですが、保護者や地域の方々とのALT活用イメージの共有が必要です。	ALT配置の効果と活動の情報発信 ・学力調査による外国語教育の結果は良好なため、大幅増員したALT全校配置のメリットを活かした授業を一層推進します。ALT活躍の場の多様化と授業効果の情報発信などを進めます。 ・活用機会の多様化と可視化、かつ、効果の可視化と周知を進めます。
2	総合的な学習(探究)に向けた取組と周知 ・探究的思考の育成に着目し、小学校のうちから教科を超えた総合的な学習支援を強化していますが、こうした社会を生き抜く力を養うための主体的かつ対話的で深い学びを促進する取組が必要です。	総合的な学習(探究)をすべての小・中学校に導入 ・学習指導要領が目指す「生きる力」の育成や課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力等、重要な能力・スキルを確実に修得するためのカリキュラムの作成と実践を行います。
3	ICT環境を活用した教育の充実 ・教育機器全般において、ICT環境の最適化が必要です。 ・教職員の活用スキル向上やICTを活用した授業効果の可視化が必要です。	ICTの活用を推進 ・GIGAスクール構想に基づくICT機器の整備と利用環境の最適化を推進します。 ・教職員の活用スキル向上を図りICTを活用した授業効果や改善を可視化します。
4	図書館司書全校配置による教育環境のさらなる充実 ・図書館司書全校配置の費用対効果の向上が必要です。 ・図書館司書を中心とした、学校図書の有効活用が必要です。	図書館司書全校配置の目に見える活用 ・司書教諭が教育面を学校司書が情報、資料面を支えることで、読解力や情報活用能力が育成される効果を高めます。研修の充実、ICT環境の整備などを通じ、効果的な学校図書館を運営します。

5	片上高等学校の魅力化推進及び周知 ・継続的に片上高等学校の教育活動の特色や魅力の強化と周知が必要です。	片上高等学校のキャリア形成を支援する機能としての目に見える向上 ・地元企業と連携した職業体験活動や就業支援の充実とその効果の可視化と周知を図ります。
6	学校規模の適正化に向けた機運の醸成 ・効果的な学校の運営や教育機会の均等の観点から学校規模の適正化に向けた取組が必要です。	適正な学校規模の継続的な検討 ・児童・生徒数の継続的な把握、保護者を含む関係者との調整による地域における学校の役割を重視した学校規模の適正化の検討を進めます。
7	学校等教育施設の充実、老朽化対策 ・昭和40～60年代に集中的に整備された教育施設は老朽化が進み、将来一斉に更新時期を迎えることから、安全・安心な学習環境の計画的な整備が必要です。	学校等教育施設の充実、老朽化対策 長寿命化計画等により緊急性のあるものから次のような事業を実施します。 ①照明のLED化事業 ②体育館空調設置事業 ③長寿命化事業 ④バリアフリー化事業

■ 施策の目標達成指標

課題番号	指標名	基準値 (2025)	目標値 (2029)
1	外国語教育環境満足度	76.6%	90.0%
2	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合	73.8%	90.0%
3	ICT 活用スキル達成度・ICT 環境満足度 学校情報化認定制度(日本教育工学協会)の各チェック項目 ①教科指導における ICT 活用 ②情報教育 ③校務の情報化 ④情報化推進体制) のレベル	市平均 ④ 1.8 ⑤ 1.7 ⑥ 1.6 ④ 1.8	市平均 ① 2.0 ② 2.0 ③ 2.0 ④ 2.0
4	読書意欲・図書館司書配置を含めた環境満足度	64.8%	90.0%
5	希望進路意識・進路決定率	100%	100%

■ 関連する個別分野計画

計画名	計画期間
備前市教育に関する大綱	2021年10月～
備前市教育振興基本計画	2023年4月～2029年3月
備前市学校施設長寿命化計画	2021年4月～2031年3月

用語	説明
ICT	Information and Communication Technology の略称。 情報通信に関する技術一般の総称で、従来使われてきた「IT」に代わる表現。
ALT	外国語指導助手。日本人教師の助手として英語教育を行う英語を母国語とする先生。
GIGA スクール構想	一人一台端末と高速通信ネットワークを一体的に整備し、より主体的で深い学びを実践する構想。
長寿命化	施設の汚れや傷み、設備の不具合などを直し施設の耐久性を高め、もっと長く施設を使い続けること。

■ 関連する SDGs のアイコン



1-4 歴史文化の活用と伝統文化の継承

■ 施策の方向性(施策の目標)

豊かな歴史、文化、自然は、地域の魅力や財産であり、多くの来訪者・観光客を引きつける資源となります。地域の成り立ちを理解したうえで、来訪者視点で地域の人々が新たな魅力作りをじっくり行なうことが大切です。魅力的な情報発信を行い、多くの人々が来訪し、新たな交流が生まれることは、地域づくり、まちづくりの起点となります。備前の歴史文化への関心を高め、地域への愛着や誇りを感じられるような取組を行うこと、また、新たな文化的魅力を創出し、誰もが身近に芸術文化に触れることができる場を提供することで、将来世代に豊かな環境や文化を継承するまちの実現を目指します。

■ 目標達成のために解決すべき課題と取組

課題	取組
1 人づくり・仕組みに係る課題 ・歴史・文化があるまちとしての認識は高いが、何よりも歴史文化の活用と伝統文化の継承が重要であると考える市民は少ない。 ・地域の歴史・文化を保存、継承していく機運を醸成することと、地域ぐるみで守りつなぐ意識が必要です。	歴史・文化を誇りに思える人の増加、永続する仕組みづくりの構築 ・歴史や文化を継承するため、備前市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の保存・活用を図ります。 ・地域や学校教育と連携し、備前市にゆかりのある人物の出前授業や論語かるたを活用した催し等の実施により、地域に対する愛着・誇りが持てるような機会を創出します。
2 歴史・文化の活用に係る意識向上 ・歴史や文化を学び、地域の成り立ちを理解した上で、守り伝え、活かしながら、その活動を知る機会を設けるとともに、文化遺産の魅力の発信が必要です。 ・ゆとりとうるおいの実感できる心豊かな社会を実現するため、芸術文化に気軽に触れる機会の提供が必要です。	市の関連文化財群等の活用に向けた整備 ・地域の文化資源等の整備を図り、市文化施設において活用します。 ・市内文化施設において、地域に根差した文化財やゆかりのある人物の企画展を実施します。 ・各文化施設におけるワークショップの充実やSNSを活用した情報発信により、広く文化財を知る機会を創出します。
3 文化施設の集約化及び新施設の有効利用 ・老朽化や利用実態等により、改修や運営方法の見直し、施設の集約化が必要です。 ・新たな魅力を創造する取組を実施し、既存の文化に新たな光を当てることも重要です。 ・新備前市美術館の開館により、所蔵品の展示だけでなく、様々な文化や歴史との融合が必要です。	文化施設の集約化や新たな文化的魅力の発見に向けた文化交流などに取り組む ・市内に複数ある文化施設の機能や役割を検討し、公共施設個別施設計画に基づき集約化を進めます。 ・市の代表的な工芸品である備前焼においても、現代の陶芸・工芸作品の企画展示等を通じて、地域間の文化交流を深め、新たな発見や融合により、新しいファンを増やします。

■ 施策の目標達成指標

課題番号	指標名	基準値(2025)	目標値(2029)
1	「暮らしている地域では、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」と回答した市民の割合	23.1%	32.3%
2	ワークショップの募集人員に対する参加者数の割合	83.2%	100%
3	各文化施設入館者数	5,614人	6,500人
3	備前市美術館の来館者数(2025年7月12日開館)	－	32,800人

■ 関連する個別分野計画

計画名	計画期間
備前市歴史文化基本構想	2014年3月～
備前市文化財保存活用地域計画	2021年～2030年
史跡備前陶器窯跡保存活用計画	2020年～2033年

■ 関連する SDGs のアイコン



1-5 スポーツ・レクリエーション活動の推進

■ 施策の方向性(施策の目標)

すべての市民が、「する」、「みる」、「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツを楽しみ、喜びや感動を得ることで、市民一人ひとりが生きがいを持ち、元気で豊かな潤いのある暮らしや活力あるまちの実現を目指します。

■ 目標達成のために解決すべき課題と取組

	課題	取組
1	部活動の地域展開 <ul style="list-style-type: none">・少子化の進展により、廃部や休部、活動を縮小する部活動が多くなっているため、地域全体で体験機会の確保が必要です。・地域の持続可能で多様な環境整備が必要です。	部活動の地域展開の推進 <ul style="list-style-type: none">・受け入れ態勢の整備、充実・地域のスポーツ及び文化関係団体との連携・指導者の確保・市民等への周知
2	スポーツ施設の整備・充実 <ul style="list-style-type: none">・スポーツ施設の情報発信や利便性向上などにより、施設の利用促進を図るとともに、設備の充実やバリアフリー化など「だれでも」気持ちよく利活用できる環境整備が必要です。・点在する施設及び老朽化する施設の集約化など、利用者ニーズと財政負担を鑑みた施設整備が必要です。	利用者のニーズに対応した施設環境の整備 <ul style="list-style-type: none">・施設の改修、修繕等の実施 (既存施設の方向性検討)・施設情報の発信・施設の利便性の向上
3	生涯スポーツの充実 <ul style="list-style-type: none">・10歳代から60歳代までの年代で、1週間のうちほとんど運動しない人が60%程度いることから、スポーツに親しむ機会の創出やきっかけづくりが必要です。	すべての年代でスポーツに親しむ環境づくり <ul style="list-style-type: none">・ニューススポーツの普及及び推進・スポーツ教室及び出前スポーツ教室の開催充実・オンラインを活用した情報発信・スポーツ関係団体等との連携
4	スポーツによる地域活性化 <ul style="list-style-type: none">・地域資源を活用したイベントの開催やスポーツ環境の整備などにより、スポーツを通じたまちおこしの機運醸成が必要です。・スポーツ、文化、観光等を一体化させた新たな価値の創出が必要です。	地域資源を活かした取組の推進 <ul style="list-style-type: none">・地域資源の有効活用・受け入れ態勢の整備、充実・スポーツツーリズムの推進・各種団体、企業等との連携

■ 施策の目標達成指標

課題番号	指標名	基準値(2025)	目標値(2029)
1	休日の地域展開が完了した部活動の割合	21.4%	88.5%
3	「スポーツ(運動)を定期的にしている」と回答した市民(10代~70代)の割合	41.8%	45.0%
4	市内体育施設利用者数	262,817人	273,300人

■ 関連する個別分野計画

計画名	計画期間
備前市スポーツ推進計画	2021年4月～2031年3月

用語	説明
ニュースポーツ	子どもから高齢者まで、勝敗よりも「楽しみ」「人の交流」「健康・体力づくり」に重点を置いた生涯スポーツ。
スポーツツーリズム	スポーツイベントへの参加やスポーツ観戦など、スポーツを主な目的とする観光や旅行のスタイル。

■ 関連する SDGs のアイコン

